

教育課程実施状況調査



「外国語理解の能力」が良好である

- ・中3英語Aは、教科全体の正答率が66.1%で、目標値を3.3ポイント上回った。
- ・観点別に正答率を見ると、すべての項目で目標値に達している。中でも、「外国語理解の能力」が69.4%で、目標値を3.5ポイント上回った。

対称生徒数	設問数	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率
625人※	32問	66.1%	62.8%	3.3	62.9%

※英語A英語B受験者合計

種別		設問数 (問)	県正答率 (%)	目標値 (%)	県-目標値 (ポイント)	全国正答率 (%)	
問題の内容	基礎・活用	教科全体	32	66.1	62.8	3.3	62.9
		基礎	20	70.8	67.5	3.3	67.8
		活用	12	58.2	55.0	3.2	54.8
	領域	聞くこと	9	71.9	70.0	1.9	70.0
		読むこと	14	66.1	62.1	4.0	63.4
		書くこと	9	60.2	56.7	3.5	55.1
評価の観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	14	63.3	61.1	2.2	59.3	
	外国語表現の能力	11	53.3	50.6	2.7	47.6	
	外国語理解の能力	17	69.4	65.9	3.5	67.3	
	言語や文化についての知識・理解	10	69.5	66.5	3.0	66.9	
解答形式	選択式	21	71.4	67.9	3.5	69.2	
	短答式	5	70.8	66.0	4.8	68.2	
	記述式	6	43.4	42.5	0.9	36.7	

設問別正答率

通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
1	選択	○		◎			リスニング (内容理解)	○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(動作と物)	76.5	70.0	73.8
2	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(したいことやほしい物)	97.1	90.0	96.1
3	選択	○		◎				○			絵を適切に表している英文を聞き取ることができる。(比較級・最上級)	68.5	70.0	70.8
4	選択	○		◎			リスニング (対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(見せてくれませんかとたずねられて)	70.3	70.0	67.3
5	選択	○		◎				○			対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)	84.3	75.0	72.4 ①



中3英語 A



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均
		関	表	理	知			聞	読	書				
6	選択	○		◎			リスニング(対話 文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、適切に応答することができる。(だれのギターかとたずねられて)	85.1	80.0	83.6
7	選択	○		◎		思	リスニング(さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の概要を聞き取ることが できる。	82.3	85.0	79.5
8	選択	○		◎		思	リスニング(さ まざまな英文の 聞き取り)	○			英文の要点を聞き取ることが できる。	62.1	60.0	66.9
9	記述	○	○	◎		表	リスニング(対 話文の応答)	○			対話の内容を聞き取り、資料をも とに英語で答えることができる。	21.3	30.0	19.5
10	選択				◎		語形・語法の 知識・理解		○		語形・語法を理解することが できる。(be 動詞の過去形)	51.2	50.0	48.2
11	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(不定詞の副詞的用法)	56.8	55.0	51.5
12	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(must の否定文)	53.0	55.0	51.2
13	選択				◎				○		語形・語法を理解することが できる。(more を使った比較級)	75.6	75.0	72.3
14	選択				◎		語彙の 知識・理解		○		対話文の情報を正しく読み取 ることができる。	71.6	70.0	68.5
15	選択				◎				○		英文の情報を正しく読み取る ことができる。	84.0	75.0	82.1
16	選択			◎		思	さまざまな英文 の読み取り		○		英文と情報・条件をもとに、適切 なものを選ぶことができる。	91.4	80.0	90.9
17	選択			◎		思			○		英文の情報・条件をもとに、適切 なものを選ぶことができる。	86.9	75.0	84.5
18	選択			◎		思			○		対話の流れと資料から、適切な語 を判断することができる。	64.1	60.0	59.5
19	選択			◎		思			○		対話の流れから、登場人物の適切 な発言を判断することができる。	61.0	55.0	61.7
20	選択			◎			長文の読み取り		○		下線部 that が指す内容を把握す ることができる。	63.4	65.0	63.4
21	選択			◎					○		メールの内容を把握することが できる。	53.4	50.0	49.6
22	選択			◎					○			61.9	60.0	58.6
23	短答		○	◎		思			○		読み取った内容をふまえて、英文 を完成させることができる。	50.9	45.0	45.9
24	短答		○		◎		単語の並べかえ による英作文			○	英文を正しい語順で書くことが できる。(have to ~ の否定文)	79.8	75.0	73.2
25	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことが できる。(動名詞の疑問文)	84.9	75.0	77.7
26	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことが できる。(be going to の疑問文)	89.1	80.0	88.7
27	短答		○		◎					○	英文を正しい語順で書くことが できる。(look (SVC) の否定文)	49.2	55.0	55.7
28	記述	○	◎			表	場面に応じて 書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書く ことができる。(when を使ってと きをたずねる)	25.9	30.0	21.2

①

教育課程実施状況調査



通し 番号	解答 形式	観点				活用 観点	問題の内容	領域			出題のねらい	県 正答率	目標値	全国 平均		
		関	表	理	知			聞	読	書						
29	記述	○	◎			表	場面に 応じて 書く英作文			○	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)	21.4	30.0	14.2	②	
30	記述	○	◎					3文以上の 英作文			○	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。	60.2	55.0	51.8	
31	記述	○	◎			表					○		70.2	60.0	62.2	
32	記述	○	◎			表					○		61.4	50.0	51.3	②

①②は目標値を上回る設問を、①②は課題となる設問を示している。

【目標値を上回る設問】① 通し番号5

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	84.3	75.0	9.3	72.4	11.9	理	選択
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、適切に回答することができる。(通学手段をたずねられて)						

【目標値を上回る設問】② 通し番号32 (テーマに沿って、3文以上で書かれている。)

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	61.4	50.0	11.4	51.3	10.1	表	記述
問題の内容	3文以上の英作文						
出題のねらい	一番好きな季節について、好きな理由や説明を含め、まとまった3文以上の英文を書くことができる。						

【課題となる設問】① 通し番号9

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.3	30.0	-8.7	19.5	1.8	理	記述
問題の内容	リスニング (対話文の応答)						
出題のねらい	対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。						

【課題となる設問】② 通し番号29

	県正答率	目標値	目標値との差	全国正答率	全国との差	観点	形式
正答率 (%)	21.4	30.0	-8.6	14.2	7.2	表	記述
問題の内容	場面に 応じて 書く英作文						
出題のねらい	対話の流れに合った英文を書くことができる。(whyを使って理由をたずねる)						



授業改善の POINT

○調査結果をふり返っての考察

ほぼ全ての項目において、目標値と全国平均を上回っていて、いずれの観点・領域においても、高い正答率を示している。特に、「聞くこと」「読むこと」の領域における「外国語理解」の部分で高い正答率を示しており、小学校外国語から英語を聞く場面に多く触れることで、英語を聞くことに慣れつつあることや、読む力を身に付けるために必要となる教科書等を読解するような場面での授業方法の改善等、様々な取組が成果となって表れてきたといえる。また経年的に課題のみられる領域である「書くこと」についても改善傾向がみられた。

しかし、複数の領域を統合させながら書いて解答するような問題において、課題がみられた。特に聞いたことをもとに書く場面や対話の流れに沿って書く場面など、複数の領域を活用しながら最終的に英語で書いてまとめるような力にはまだまだ課題が多く残っているといえる。

以上の考察をもとに、3つの視点から授業改善のポイントを示す。

○授業改善のポイント

「複数の領域を統合させながら、最終的に書いてまとめる力」を高めるために

(1) 日々の授業で複数の領域を統合させた活動を意図的に取り入れる

例えば、教科書等の内容について、読んだことをもとに自分の意見や感想を友達と話す。話したことをもとに、友達の考えも参考にしながら、自分の意見や感想を書いてまとめるような活動を行う。

(2) 書く活動はステップを踏んで取り組むように工夫する

例えば、書く活動を行う際に、いきなり書く題材を与えるのではなく、題材について、生徒と英語でやり取りをしたり、生徒同士で話す時間を作ったりして、話したり聞いたことをまずは書いてみるといったようなステップを踏んだ活動場면을意図的に作る。

(3) 書いた英文を自分たちで確認し、間違いに気付く場面を設定する

例えば、完成した英文をペアやグループ等でお互いに読み合い、間違いがないか確認し合う。特に多く見られるような特徴的な間違いは教師がクラス全体で取り上げ、共有するなどしながら、英文を自分たちの力で修正し完成していくような場面を作る。